

令和6（2024）年度

女性教育指導者研修第3回 実施報告

実施日：令和6（2024）年7月17日（水）

女性教育指導者研修の第3回研修は、午前に講話・演習「女性教育の視点を生かして地域で活躍するリーダーに求められること」を、午後にグループ研究②「地域課題把握のための準備②」を行いました。

講話・演習「女性教育の視点を生かして地域で活躍するリーダーに求められること」

跡見学園女子大学 准教授 石崎 裕子 氏

石崎氏は、「社会学」や「ジェンダー論」等を専門としており、社会に貢献できる女性の育成に携わっていらっしゃいます。今回は、男女共同参画の視点を生かして地域で活躍するリーダーに必要なことやリーダーとしての資質についてお話しいただきました。



はじめに、地域における女性の参画状況として、地方議員における女性議員の割合の推移や、自治会長及びPTA会長に占める女性の割合の推移について、女性議員や女性自治会長の体験記を交えて説明がありました。

次に、災害時の避難所運営の課題について説明がありました。地方防災会議での女性委員の割合の少なさに伴い、避難所運営での女性の視点も少なくなり、女性が困惑する場面が生じているとのこと。また、災害時の避難所運営では、女性や子ども、高齢者等、多様な人々への対応が必要であるものの、災害時は平時の固定的な性別役割分担が顕著化しやすく、特定の人に負担がかかってしまうとのこと。

最後に、今後は災害時だけでなく、平時より女性リーダーを増やしていくことが必要であることや、これからのリーダーは、多様性を尊重し、グループのメンバーの意見を聞いて、調整役ができることが求められていることを話されました。

受講者は、女性の視点を生かして地域で活躍するリーダーに必要なことについて理解を深めるとともに、今後の研究で女性の視点からの地域活動について考え、それを周りの人と共有したいという意欲を高めることができました。

グループ研究②「地域課題把握のための準備②」

午後の研修は、グループ研究の2回目として、研究テーマの設定と研究計画の作成などを行い、「地域防災」という大テーマから、「女性目線で考える防災」という研究テーマを決定しました。

本県は、他県と比べると災害が少なく、防災に対する意識に個人差があるのではないかと、いざ災害が起きた際に、どのような避難所が必要なのかという課題意識から、防災意識の向上と女性の視点を取り入れた避難所の開設について研究することになりました。



受講者は、限られた時間と条件の中で、積極的に意見を出し合い、班長を中心に研究内容や研究方法などを決めて、スムーズに研究計画を作っていました。今回の研究計画を基に、第4回では、講座の企画・立案のために必要な情報収集（フィールドワーク）を行います。

<受講者の感想から>

- まだまだ男性のリーダーも多い中、女性の視点で考え、行動できるリーダーが必要だと思いましたが、子どもがいたりするとなかなか難しいなと感じました。
- 研究のテーマである防災について、女性の視点で考えられたことを地域にも持ち帰って、生かしていきたいと思います。
- 講話での事例紹介が参考になったので、グループ研究でも生かしていきたいです。
- グループでの企画・立案が思ったより難しいと感じましたが、色々と取材をして内容を決めていきたいです。

研修内容に関するお問い合わせは、栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL:028-665-7206 e-mail: skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp